○o。.○o。.○o。.○o。.○o。.○o。.○o。.○o。.○o。.○o。.

水環境ニュースレター by RECWET　第 27 号　2024.10.23(水)

.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○.。o○

国際シンポジウム SEAWE-14 開催準備期間のため、本号では本センターとメンバーに関するニュースをお届けします！（番号：1 水質制御技術・素材部門、2 水システム管理部門、3 国際水環境部門、4 国際下水疫学講座）

――――――――――――――――――――――――――――

水環境工学研究センター（RECWET）の活動

――――――――――――――――――――――――――――

【信州大学との連携推進協定の締結】

信州大学アクア・リジェネレーション機構と本学工学系研究科は連携の推進に係る協定の締結と調印式を 10 月 1 日に行いました。また、本協定に基づき工学系研究科の施設内に連携分室を設置します。
信州大・東大の両者のさらなる連携により、水分野に関する幅広い先鋭的研究の高度な融合と、世界の水及び関連分野への発信力強化が期待されます。
本センターが本学の研究担当となります。工学系研究科プレスリリースもぜひご覧ください。

【第 14 回 東南アジア水環境国際シンポジウム SEAWE-14】12 月 3～5 日
想定を上回る１６６件の発表応募があり、急遽プログラム委員を増員してアブストラクト査読を行いました。３会場で約１１０件の口頭発表と、約５０件のフラッシュトーク枠を設けるプログラム構成になりました。また、民間財団からの会議開催助成も活用し、中・低所得国からの若手研究者の発表１７件を選定し、参加旅費の支援を実施すべく、助成対象者への案内を行っております。
クアラルンプールのマラヤ大学側では基調講演者や会場との調整、テクニカルツアーの計画が進んでおり、東大側では助成対象者との調整や発表登録、参加登録の受け付けに大忙しです。ぜひ、奮ってご参加ください。
https://www.recwet.t.u-tokyo.ac.jp/asian_water2024/

【RECWET 特別セミナーの報告】
第 62 回：**Bryan W. Brooks** ベイラー大学特別教授/ES&T Letters 誌編集長が環境毒性やリスク評価について講演し、コーディネーターの**北島正章**特任教授[4]らと研究交流しました。（9 月 10 日）

【流域水環境管理に関する研究（水システム管理部門）**】**
山崎大准教授（生産研／協力教員）が中心となり**社会基盤・水圏環境**グループが開催している Hydrosphere Science Seminar（公開・オンライン）に本センターも連携しています。
10 月 7 日はセンター教員の**橋本崇史**准教授[1]が講演を行いました。

――――――――――――――――――――――――――――

RECWET メンバーの活動

――――――――――――――――――――――――――――

【センター教員による論文発行】

■ **北島正章**特任教授[4]

- COVID-19 感染症の発生率を正確に推定するための下水疫学調査手法を評価した論文が Sci. Total Environ.誌より発行（**Murakami, Kitajima** et al., 10 月 9 日）大阪大学および同感染症総合教育研究拠点からプレスリリース発行
- 下水サーベイランスデータ標準化方法に関する論文が Sci. Total Environ.誌より発行（**Endo, Kitajima, Tanaka** et al., 9 月 11 日）

■ **滝沢智**教授[3]（水道分野人材育成講座）8 月 29 日

ネパールにおいて酸化マンガン被覆砂およびセラミックを用いて地下水中の鉄とマンガン除去率を改善した研究の論文が Water 誌より発行（**Ankit, Kazama, Sawangjang and Takizawa**）

■ **片山浩之**教授[1]　8 月 21 日

長期下水モニタリングがパンデミック感染制御の効果的なツールであるとする論文が Journal of Infection and Chemotherapy で印刷中（**Tateishi, Katayama, Yanagimoto** et al.）

■ **珠坪一晃**教授[3]　8 月 1 日

DHS リアクターにおける大腸菌の除去機構に関する論文が J. Environ. Sci. Health.より発行（**Tomioka, Syutsubo** et al.）

【センター教員による招待講演】

■ **滝沢智**教授[3]

- 令和 6 年度水道大学基礎講座(PDF)（全国簡易水道協議会主催）にて、これからの水道システムの在り方について講演します。（10 月 25 日，都内）
- 岩手県盛岡市水道創設 90 周年記念講演会にて、「水道の地震対策と脱炭素」に関する講演を実施しました。（10 月 4 日，盛岡市）

■ **北島正章**特任教授[4]

- SpringX 超学校講座にて、万博開催を踏まえた下水疫学の最先端について招待講演をしました。（9 月 30 日、大阪/YouTube）
- 微生物生態に関する国際シンポジウム ASME 2024 で基調講演を、当開催大学の環境・職業健康科学研究所で特別講義をそれぞれ行いました。（9 月 19 日、国立台湾大学）

■ **栗栖太**教授[2]

環境と毒理学に関する国際学会 SETAC Asia-Pacific 14th Biennial Meeting にて基調講演を行いました。（9 月 22 日，中国天津市）

【センター教員が関与する主な会議】

■ 水インフラ更新小委員会 シンポジウム 2024（10 月 30 日@Zoom）

滝沢智教授[3]が DB・DBO・DBM による水道事業基盤強化を進める同小委員会の委員長を務め、シンポジウム開催予定です。

■ 第 2 回 AI 先端技術 講演会（10 月 23 日@本学）

橋本崇史准教授[1]が事務局（環境工学委員会 上下水道における IoT・ICT・AI 活用小委員会主催）を務め、本日開催されました。

■ 第 14 回 CSJ 化学フェスタ 2024（10 月 22-24 日@都内）

加藤隆史教授[1]が実行委員会・委員長としてフェスタ開催中。また領域代表として「水圏機能材料」新学術領域研究にてコラボレーション企画を開催しました。

■ 第 27 回日本水環境学会シンポジウム（9 月 11-13 日@岩手大）
片山浩之教授[1]が水中の健康関連微生物研究委員会の委員長としてセッションを開催しました。
■ 環境科学会 2024 年会（9 月 9-10 日@本学）
栗栖太教授[2]が水質スクリーニング分析の社会実装シンポジウムのオーガナイザーを務めました。
■ 第 76 回日本生物工学会大会（9 月 8-10 日@）
栗栖太教授[2]が水処理技術に関するシンポジウムのオーガナイザーを務めました。

【その他の活動】
■ 上下水道の未来をテーマにした**北島正章**特任教授[4]の対談記事が公共投資ジャーナル社の Web メディア「上下水道情報 plus」に掲載されました。
■ **北島正章**特任教授[4]が、世界の最新科学ニュースを掲載するポータル INNOVATION NEWSNETWORK サイトにパートナーとして紹介されました。
■ 水道施設に詳しい**滝沢智**教授[3]が取材協力した浄水場の耐震化に関する記事が、防災の日に朝日新聞に掲載されました。（9 月 1 日）
■ NHK 放送「明日をまもるナビ」で紹介された**田島芳満**教授[2]の高潮に関する現地調査が NHK 防災サイトの記事として閲覧できます。（8 月 29 日）
■ 国境離島を紹介する東京都のサイトに、**田島芳満**教授[2]へのスペシャルインタビュー記事が掲載されました。（8 月 9 日）

――――――――――――――――――――――――――――

最後に

――――――――――――――――――――――――――――

最後までご覧いただき誠にありがとうございました。
水環境等に関するイベントや、プロジェクトをご紹介ください。また、本ニュースレターにて学内研究者・関係者にお知らせしたい情報がありましたら、ぜひご連絡ください。
次回の配信は 2024 年 12 月を予定しております。「水」のセンターなので、配信日は水曜日です！

▼当ニュースレターのバックナンバー
https://www.recwet.t.u-tokyo.ac.jp/details/newsletter.html

工学系研究科 附属水環境工学研究センター（RECWET）
連絡先：古正裕紀　sec-recwet@env.t.u-tokyo.ac.jp
新規ご購読・配信停止はメールにて承ります。